

多期的 Fowler-Stephens 法を施行し精巣機能の温存に成功した両側高位腹腔内精巣
—ステロイド合成能予測と MRI の有用性に関する考察—

平栗 あかり（福島県立医科大学医学部 泌尿器科学講座）

この度は学会賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。私が今回発表した症例は、両側高位腹腔内精巣に対して多期的に精巣固定 (Fowler-Stephens 法) を行い、両側精巣の温存と二次性徴の発来に成功した症例でした。非常に高位の精巣を陰嚢に固定することで精巣を萎縮させてしまうリスクと、精巣固定を遅らせることで懸念される悪性化や造精機能低下などのリスクを天秤にかけ、より良い治療方針を追求した一例でした。稀な症例に触れ様々な考察をすることで非常に勉強させていただきました。泌尿器科医として2年目でまだまだ未熟者ですが、これからもいろんな症例を経験し、乾いたスポンジのようにたくさん吸収していきたいです。

最後に、たくさんの時間を指導に費やしてくださいました小島教授ならびに教室の先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。これからも初心を忘れず精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。